

おさらい帳

小川未明

青空文庫

この夏なつのことでした。正ちゃんしょうちゃんは毎日まいにちのようにもち棒ぼうを持つて、お宮みやのけいだいへ、せみとりに出でかけました。そのけいだいこたちは、木立こだちがたくさんあつて、すずしい風かぜが吹ふいていました。そして、雨あめのふる音おとのように、ジイジイせみがないていました。また、あぶらぜみがないき、午後ごごからはひぐらしがないたのでありました。しょうちゃんしょうちゃんは日ひにやけた黒くろい顔かおをして、ごはんを食たべるのも忘わすれて、あそびにむちゆうの日ひが多おほかったです。

だから、晩ばんがたは疲つかれてお家うちへかえり、お湯ゆにはいると、すぐにいねむりをしてしまいました。

「そう毎日まいにち日まいにちあそんでばかりいていいのですか？」と、お母かあさん

がしんぱいをしておつしやいました。

すると、そばからお父さんが、

「いや、どこへも避暑ひしよにいかなかったのだから、休やすみのあいだだけじゆうぶんにあそばしてやればいい。」と、いわれたのです。

正しょうちゃんちやうは、お父とうさんの言葉ことばがどんなにうれしかったかしま

せん。自分じぶんは、どこへもいきたいとは思おもいませんでした。ただ、

あのお宮みやのけいみだいで、年としちゃんちやうや吉雄よしおさんたちと仲なかよくあそんでいおることができれば、それがなによりもたのしいことだと思おもいました。

「ねえ、お父とうさん。ききよう紙芝居かみしばいのおじさんが、じてん車しやをほつたらかして木きの下したで、道具屋どうぐやのおじさんと将棋しょうぎをさしていま

したよ。」と、話はなしました。

「ああそうか。あすこは涼すずしいからな。将棋しょうぎをさしたり、ひるねをしたりするのはいいだろう。」と、お父とうさんはわらわれました。

「紙芝居かみしばいのおじさんは、なまけていけませんね。」と、正しょうちゃんは、まじめになっていいました。

これをおききになったお母かあさんは、おかしくてたまらぬように、「まあ、自分じぶんのなまけることはわからずに、ひとのなまけることはよくわかるんですね。」と、おわらいになりました。

学校がっこうがはじまって、だんだん涼すずしくなると、みんなは勉べん強きょうにせいを出ださなければならなくなりました。

ある日、正ちゃんのおさらい帳をもらんになったお母さんは、おどろいて、

「わからないところはみんな書いてないのですね。書いてあるところも、いくつかちがつているじゃありませんか。」といって、正ちゃんをおしかりになりました。

正ちゃんは自分が悪いと思つたときは、だまつていました。

「なぜ、わからないところはお姉さんにもきかないのですか。」お母さんはこのことを、お父さんにいわぬわけにはまいりませんでした。お父さんがおかえりなさつて、一家のものがたのしく夕飯をすましたのちでありました。

「正ちゃんは、学校のことがちつともできないのでごぎいます

よ。これをごらんください。」といって、おさらい帳をお父さんの前まえにお出だしになりました。

お父さんとうは、できないとおききになると、ちよつと暗くらい顔かおつきをなさいましたが、おさらい帳ちようをおとりあげになつて、ていねいにごらんになりました。

「せみととんぼの絵えを、おかきなさい。」と、いうところがありました。

これは、正しょうちゃんのいちばんとくいなところだったのでしよう。ほんもののせみと、とんぼをみ見るように、それはよくかけていました。これには、さすがにお父さんとうも、

「うまいもんだなあ！」と、心こころの中なかで感かん心しんなさっていました。

そして、正ちゃんのかいた絵をごろんなさっているうちに、自分も子供の時分に、よく虫を観察して、とんぼの背中にはおかんのんさまがあるといったものであるが、そのかんのんさまのおすがたまで、完全にうつしてあるのに、むしろびっくりなさいました。

正ちゃんもお母さんも、お父さんの口からなんといってお小言が出るかと思つていと、

「これからおちついて勉強しなければならぬ。おちついてやりさえすれば、正坊はよくできるのだから。」

こうおつしやつたお父さんは、自分も子供の時分には、せみやとんぼのお友だちだった、そして彼らの生活からいろいろのこ

とをおぼえたと、なつかしくお思いおもになったのであります。

お父さんとうは、正ちゃんしょうをしかる気きにはなれませんでした。かえって、忘れてわすってしまったせみやとんぼのすがたを、つくづくごらんになって、「こんなだったかなあ。」と、お思いおもになりました。

正ちゃんしょうは、また、いつもやさしいお父さんとうのことばに感激かんげきして、これから勉べん強きょうするようになつたのでした。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷

1983（昭和58）年1月19日第6刷

初出：「教育・国語教育 5巻11号」

1935（昭和10）年11月

※表題は底本では、「おさらい帳《ちよう》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：酒井裕二

2015年5月24日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

おさらい帳

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>